

911.3
7
1

藏

俗文

選

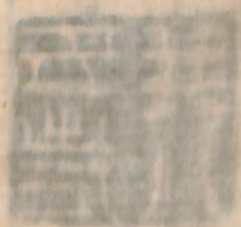
序目

五本由

白石源太郎主

五本由

正史書稿六卷



本朝文選





五老井許六選

五老井許六選



風俗文選序

月澤 律師李由述

飛蝶乃羽友子。五老井の許六。滑稽

俳諧新古今。又、素を拾ひ集めく風

俗文選と題もむ。い。や。と。新文選集

て。こ。世。を

本邦文粹といふ。我。お。い。文粹々。

本邦の人。お。述。作。て。文。乃。作。す。い。く

漢文がなへり。今神なる文選は和書の
文章より其作をのけり。漢文はこれ
へりむ。いふなり。やうも。細おが。いふを。皆と

朝の文章と稱する。拙之。今此風
俗又選のりなり。一。史記文。文字
數を定め。顔をして。を格より。通る。か

とい記する所をみれば、遠くあれは漢文とて
も怪なりとぞと見えしをわづらひて和文の文字
の教さすよし、此「顔」字とてもなり。志くを
て来り、荒賊よ、おまゝお通のかみなりと、約と

衣を強も。自甚能乃才あわく。詳々の疎をり。此
 にも。袖を子鼠の仔も抱して。ふふ。又。其の
 と。だ。彼。事。を。ふ。の。所。乃。句。讀。を。教。ふ。類。な。し。ん。や。
 げ。又。と。志。ま。う。者。に。げ。道。を。志。う。者。を。と。作者。の。心。
 む。を。先。と。稱。と。う。と。能。い。湖。東。森。氏。の。み。し。く。
 虚。実。の。に。さ。う。と。い。ふ。一。と。志。う。今。其。名。望。を。國
 一。て。げ。又。選。を。志。さ。う。矢。も。室。小。元。好。日。序

風韻文藝

痛く。又選ある時。吾れは文選なり人や
 あらうとていふ。何ぞよと我を。師の夫子。詳明
 する。凡そ素より。固に乃んを傳へ。莊子の言ふ如
 き。世に被る。和漢を以て。不まといふ。安を傳ふる
 う。おろしまた也。人々をすこくはきよく。それをして
 て。いふ。と我が思ひあふ。又素は何乃んか。あらん。
 んちて此乃んから。すぐ。八世にお変化して。その素
 化を志する人をいふ。染を志せる人といふ。ある。其
 人の下をすれども。乃つて中層よりなされし。

[illegible]

寶永九年甲申臘月日



風俗文選

自序

五老井許六選

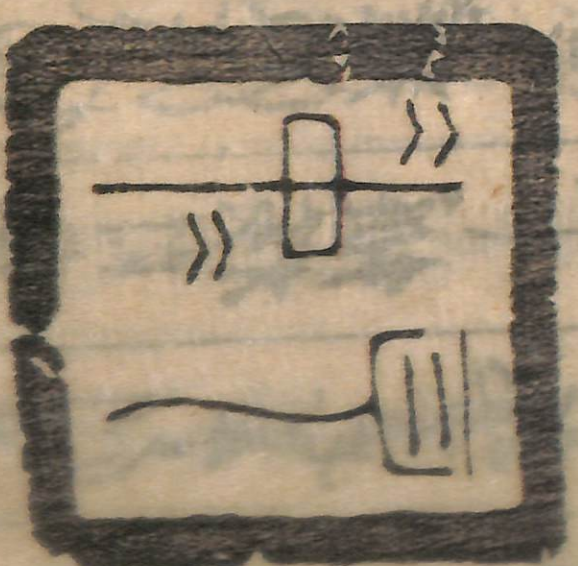
文々貫道ノ器也。孔子も筆力あり、
出れをきつとくも、吾邦往首のびー
より、大和詞代文筆、庫より車り
みてびりきと。世ふおこるゝと来
おほらるゝ女なの事よして、源氏様

長乃きしうひ。男女共中試はく。實ハ
奇よき。道にふたねへ。共リ
歌連哥の文法めて。誹諧文章。平心
格式一言もた。先師芭蕉翁。始て
一格試とて。氣韻生動とあり。き
たとひ。鄙言漢字をまどへ。ちとも
平ら。吉野。その。田の花。み。菜と。う。や
み。和。可。の。浦。志。試。を。て。難。波。津。の。細。き
よ。あ。また。な。り。志。へ。一。縦。横。自。在。を
画。き。る。こ。も。い。ひ。の。入。趣。を。平。心。の。不
な。て。々。帝。家。の。丸。の。お。け。う。一。さ。あ。く
果。の。松。坂。を。仕。舞。と。る。や。な。甚。し。下。し。事
あ。る。べ。い。今。あ。り。あ。ら。う。と。文。章。魁。々。二十。
文。ハ。一。百。十。有。余。篇。皆。く。俳。諧。又。素。かな。

浪化者東門主

終卒年五十一葬江別義仲寺

浪化者東門主一如大僧正之連技也號應



本朝文選

作者列傳

芭蕉翁者伊賀之人也武名松尾甚七郎奉

仕藤吉家壯年時辭官遊茂別江戶風雅

為業號枕青乃謝諸正風射中興閑祖也

寧世為遺跡修武小石川之水道四年成

速捨功而入深川芭蕉庵出家年三十七

天下稱芭蕉翁遊東西南北說風雅耶諸

門人國中悉歸芭蕉風遇難波津伏病

終卒年五十一葬江別義仲寺

浪化者東門主一如大僧正之連技也號應

真阮居干越中井波瑞泉寺。一日遊治舍
色蕉翁效風雅。後著有磯海前後集病薨。
年三十二。

僧文呖者。尾州大山產也。廿年辭武出家。隱
於本山上。蕉門之騷客也。能詩。後三年閉
閣而終不出。病死。常讀法華經。年四十四。

僧千那者。江州堅田產也。居干本福寺。釋名
妙式上人。掌任律師。號蒲萄坊。中華蕉門
之高弟也。

僧季由字買年。近州之產也。居干光明遍照
寺。釋名亮隅上人。掌任律師。入蕉門而學。

風雅年久。故著韻纂。篇突字。陀法師。書病
死。年四十五。

支考字盤子。號東花西花。亦號獅子庵。濃列
之產也。入蕉門業風雅。一方門人也。先師
滅後遊東西南北。說風雅而助諸生。故往往
往衰。支考風者多矣。中遇居干勢州山田。

後歸故國作誹書數篇。辨俳諧之論。

晉其角者。武列江戶產也。生醫家。不事醫術。

終業俳諧。寶井氏。號狂而堂。蕉門之一人。

而後起已一風者。誹書數篇。

嵐雪者。服部氏。不知何許人。業風雅。遊武江。

戶蕉門之高弟也。後別妻出家。

野坡者。越之前列人。生商家。居于武江。戶蕉

門之學者也。一遊西海。不定其所居。隨師

得炭俵之撰号。

北枝者。加列金澤之人也。業磨工。見蕉翁好

風雅。北方之逸士也。

凉定者。勢列山田神藏之人也。業風雅。初號

團友。

露川者。伊賀之人也。生商家。居于尾名護屋

也。好蕉門之風雅。

雲鈴者。奥列南部之人。產武。壯年入道。自號

摩訶菴婆旦人。風雅師。東北坊。一渡。沈渡。

島著入日記。

吾仲者。洛陽人也。居于六條。業佛畫。好風雅。

師李由。自號柳後園。著柿表紙三卷。

路通者。不知何許。者不詳其姓名。一見蕉翁。

聽風雅。其性不實輕薄。而長違師命。飄泊

之中。著能諧之書。

凡北者。加列之產也。業醫。居于洛。學蕉門之

風雅。一罪事。不知其終處。

素堂者。山口氏也。居于武陽。避世務。隱于深

川。友芭蕉翁善。

嵐蘭者不知何許人。松倉氏業武奉仕板倉家而奉諫速辭官。携其隱于武淺州蕉門之老弟也。為月遊于無倉病死。

荊口者濃列大垣之武士也。宮崎氏蕉門故老之士也。此節千川文鳥三士之父也。後致仕改名東空。

去來者肥前之產也。後隨兄居于洛陽。向井氏也。中華蕉門之高弟也。號落柳舍。隨師選猿蓑。後病死年五十三。

万子者加列金澤之武士也。生駒氏號世君庵。蕉門之英士也。

厚為者加列太聖寺之武士也。河地氏蕉門之英士也。病死。

木導者江列龜城之武士也。直江氏自號阿山人。蕉門之英才也。師翁稱奇異逸物。

汝村者江列龜城之武士也。松井氏字師薑。號九筆亭。蕉門之達士也。嘗能書畫。繪師ニ五老井。

毛統者江陽彦城之武士也。北山氏號大雅堂。好風雅。愛畫圖。師ニ五老井。

程已者近列龜城之武士也。朝倉氏號白日堂。愛蕉門之風雅。

朱迪者江陽康城之武士也。寺島氏。号其露臺。年久好風雅而入蕉門。病死年四十三。撰者許六者江列龜城之武士也。名百仲。字羽官。森川氏。號五老井。別号菊阿佛。一見蕉翁得正風躰實血脉道統之門人也。常友李由撰俳書數篇。

本館以上二十八人

風俗文選目錄

五老井許六選

○卷之一

辭類

柴門辭

芭蕉翁

瓢辭

許六

示秋之坊辭

支考

示古鏡辭

李由

送新道心辭

丈艸

燒蚊辭

嵯蘭

鉢扣辭

去來

四季辭

許六

○卷之二

賦類

南都賦

汝村

鎌倉賦

許六

吉野賦

丈艸

松嶋賦

芭蕉

富士賦

嵐南

湖水賦

李由

前磨山賦

支考

後磨山賦

去來

○卷之三

賦類

附譜

鼠賦

去來

旅賦

許六

楊揮豆賦

毛純

四寐廬賦

李由

閑居賦

汝村

招魂賦

支考

譜類

百鳥譜

支考

百花譜

許六

山水譜

許六

○卷之四

說類

簑虫說

素堂

柴賣說

九北

閉關說

芭蕉

師說

許六

名阿段說

許六

出女說

木尊

雜說

不知作者

愛釋說

万子

卅字藤說

程已

草刈說

露川

山羊說

吾仲

嘲霄惑說

毛統

解類

獲麟解

許六

長雪隱解

許六

藪醫者解

汶村

○卷之五

記類

落柿舍記

去來

幻住菴記

芭蕉

十八樓記

芭蕉

五老井記

許六

九華亭記

汶村

琵琶亭記

許六

風水二臺記

許六

紀行類

鹿島紀行

芭蕉

南行紀

李由
許六

序類

曠野序

芭蕉

猿蓑序

其角

墓柳後園序

支考

要文集序

許六

近江八景序

千那

画樓繪合序

許六

四絕文章序

李由

麻生後序

許六

銀河序

芭蕉 番椒序

野旅

○卷之六

箴類

飲食色欲箴

計六

聽箴

計六

銘類

机銘

芭蕉

東銘

支考

西銘

計六

茶碗銘

嵐雪

雲華園銘

汶村

飯鉢銘

吾仲

左右銘

芭蕉

是非齋銘

計六

誄類

嵐蘭誄

芭蕉

丈艸誄

去來

去來誄

計六

○卷之七

歌類

挽歌

支考

鄙歌

五首

文類

俳諧發願文

浪花

聖靈祭文

李由

剃髮文

支考

祭猶文

支考

吊古戰場文

芭蕉

斷絃文

許六

○卷之八

傳類

公平傳

汶村

東順傳

芭蕉

牧童傳

支考

五郎四郎傳

支考

靈虫傳

去來

和氣傳

李由

直指傳

許六

支考

去來

碑類

壺碑

芭蕉

笠塚碑

李由

○卷之九

辯類

詩歌誹諧辯

文州

定先後辯

支考

豆腐辯

許六

天狗辯

木尊

手足辯

汶村

人參辯

許六

射御辯

許六

表類

雨乞表

許六

嘲佛骨表

其角

讀佛骨表

厚為

陳情表

表考

○卷之十

論類

旅論

許六

仁不仁論

北枝

蕎麥論

許六

頌類

誹諧頌

李由

蕎麥切頌

雲鈴

酒德頌

朱迪

石臼頌

芭蕉

讚贊類

西行上人像讚

芭蕉

神農讚

涼兒

義少年畫讚

許六

團扇贊

荊口

入學贊

許六

紫芝世贊

許六

書類

院艷書

目蓮上人報書

平野

Blank page with vertical lines for writing.

柴門辭 サイ モニ

芭蕉

瓢箪ヒサゴノ

許六

示シ秋アキ之ノ坊ホウ辭ジ

支考

示古鏡辭

李由

送新道心辭

文州

燒カキ
蚊カマ
辭

藏菊

鉢扣辭

去來

四季辭

并六

風俗文選卷之二

五老井
許六選

辭類

柴門辭

送歸許六之故鄉
餞別之文也

芭蕉翁

云々。秋より神ツメの面をおるを。やゝあ月のうしろ。深地
 別をとりむ。そとに秋はおもみく。びとをナリヒ廊をさへ
 て。他日軍兵をりん。そをツメ僧をぬこ。内旅をさへ。そ
 ころんよとよみある。修を何乃あるじや。内旅のあ
 ぬじとて。内旅を何のあをさへ。画のれをさへ。そ
 て。そとに。平ツメ二つて。用をりひる。一なる。まへ
 ち。そとに。多能をねと。さへ。二つて。用一なる。ま

卷一

か

うき色もなきて楊墨ぐらゐるもけしはのき

卷一

うさくらとてい。腹傳と肥くらとて。口おせうた何
 ちや。せうくして餘乃入るくら。トナメのなけきやうと
 大突ーて。何て云。陰流乃水。すめらふづけて泳ぐ
 上。溜る。終ナニを押さうと云く。起てまよおふ

示秋之信辭

文考

あり秋の信や。みちみちなり。世乃秋なり。又きりぬの信なり。
 又神づてやくさばよ。ふみふみなり。ぬきぬきなり。ふみ
 ありく。彼ら一袖もなき。とみ也。びり。湖蘭の如く
 なる。一衣もなき。とみ也。びり。湖蘭の如く

やすらんやみやすらん世を迅速の百とあること
 昨も林蔵よておくらち中さ神一う。今けまの庵よ。回
 んよとも人をさる法師の。おほく。侍るが。おいくぬ目お
 も侍りて。かく侍する。うあやーくをさすを神家又
 あよまわてあさづ。何某が。こまひ。し。新よみ
 ちやあらんと。そらん。しも。うひも。な。秋の
 ぶ。どん。い。さ。る。り。な。り。ん。く。回。さ。ぶ。い。く。も。継
 け。り。ん。と。せ。世。情。い。お。ち。て。心。乃。花。う。い。う。ひ。あ。し。
 花。あ。ま。い。世。の。風。流。な。し。世。い。そ。る。す。る。も。と。な。り。し
 しく。け。あ。ま。よ。あ。ま。て。い。さ。る。り。な。神。そ。い。う。い。ふ。ま
 あ。う。い。い。継。保。よ。ま。い。う。く。も。あ。わ。く。う。い。し。と

すまをわきま。山崎よかきふ。神さう。傳ふ。たて
今乃あら。う。お。可。さ。う。然。存。の。い。ふ。家。を。お。さ。う。と。ぬ
こ。さ。は。乃。は。い。と。を。祓。が。い。て。捕。ふ。神。を。P。お。わ。ぬ
帳。金。を。わ。く。又。後。み。あ。つ。い。ぬ。乃。尺

焼蚊辞

嵐貞

蚊。蚊。帳。中。の。蚊。汝。を。焼。々。辞。を。見。し。も。汝。い。辞。を。い。ふ
時。々。も。う。も。死。と。し。も。う。い。う。た。き。つ。て。い。せ。よ。夫。漢。羅
々。樊。中。よ。や。ー。な。ん。神。い。体。保。つ。け。し。彼。々。心。を。く。れ
こ。神。々。金。を。を。り。し。笑。々。く。人。乃。肌。を。せ。せ。せ。う。も。い。と。あ。せ。い

そ。神。を。く。く。も。い。や。

刺。汝。々。さ。う。か。く。れ。て。事。の。お。や。い。汝。々。帳。々。今。
帳。の。お。や。い。汝。々。あ。い。神。々。さ。う。い。づ。神。々。さ。ん。や。

陣。促。織。乃。大。々。入。々。意。い。と。き。け。い。り。た。ー。や。面。々。漢

意。々。さ。う。ち。く。は。も。い。神。々。い。汝。々。に。あ。つ。ー。げ。お。お。乃

弦。の。絶。々。む。り。も。さ。う。む。づ。い。の。あ。い。神。々。と。ま。し

ゆ。が。や。う。さ。う。何。を。情。と。も。い。義。神。の。送。乃。ハ。暫。々。い

さ。ー。い。須。い。ふ。ま。い。が。夜。付。が。く。神。々。い。神。々。さ。う。い

下。も。天。下。の。お。う。い。て。名。々。の。づ。う。さ。う。い。ぬ。又。汝。々。い。い。や。

劇。舞。々。祝。文。を。さ。け。目。々。ハ。ト。サ。ウ。ミ。ト。イ。イ。グ。ズ。イ。イ。神。々。さ。う

共。々。天。々。い。て。汝。々。い。い。ふ。べ。お。い。あ。う。む。大。漢。お。に。極。々。を

五平書之

去來

[illegible]

[illegible]

此の書は、
 一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百。

[illegible][illegible]

ふれらに初也。よちらふ。ふれらにふれらにふれ
もやうなり。今やふれらにふれらにふれ
果てら。二日。返る。ふれらにふれらにふれ



ふれらにふれらにふれらにふれらにふれらにふれ
ふれらにふれらにふれらにふれらにふれらにふれ
ふれらにふれらにふれらにふれらにふれらにふれ
ふれらにふれらにふれらにふれらにふれらにふれ

